

WinActorライセンスのご紹介

目次:

WinActorライセンスについて

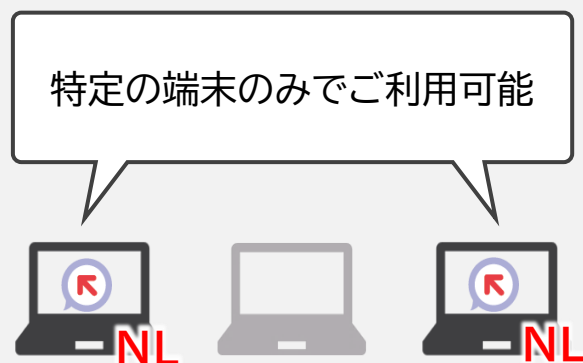
- 1.ライセンス種類について
 - 2.ライセンス種別について
 - 3.フル機能版/実行版の「管理実行モード」と「管理実行版」
 - 4.ライセンス種類とライセンスの種別の組み合わせ
 - 5.インストーラーについて
 - 6.AI連携ライセンスご利用の流れ
 - 7.AI連携ライセンス ご利用条件・制約事項
- 付記: AI連携ライセンスのよくある質問

WinActorのライセンス種類

ノードロックライセンス(NL)

- 特定の端末のみ WinActorが利用可能
- 1ライセンスで1インストールが可能
- ライセンス管理は各端末上で実施
- インストール端末数分のライセンスが必要

(例)NLを2ライセンス利用中の場合



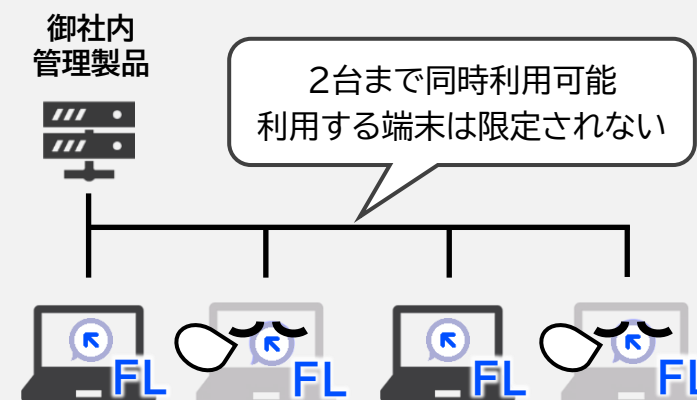
※1
FLA:
WMC:
WD:

Floating Licence ADMIN
WinActor Manager on Cloud
WinDirector Powered by NTT-AT

フローティング ライセンス(FL)

- ライセンス管理サーバー上でライセンスを一括管理
ライセンス管理製品※1 (FLA・WMC・WDなど)が必須
- 購入したライセンス数の範囲内で、端末を限定せず
WinActorが利用可能※2
- 同時利用する端末数分のライセンスが必要

(例)FLを2ライセンス利用中の場合



※2 利用予定の全ての端末にWinActor(FL)のインストールが必要

生成AI連携機能の利用には、生成AIベンダーとの別途契約が必要

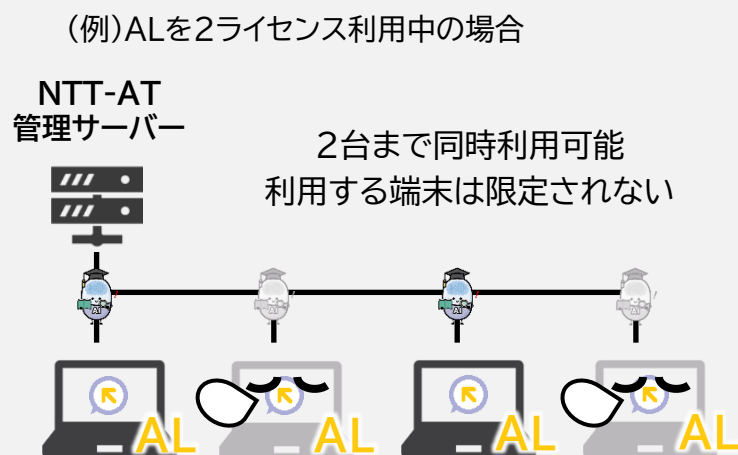
WinActorのライセンス種類

ライセンスの
詳細はこちら

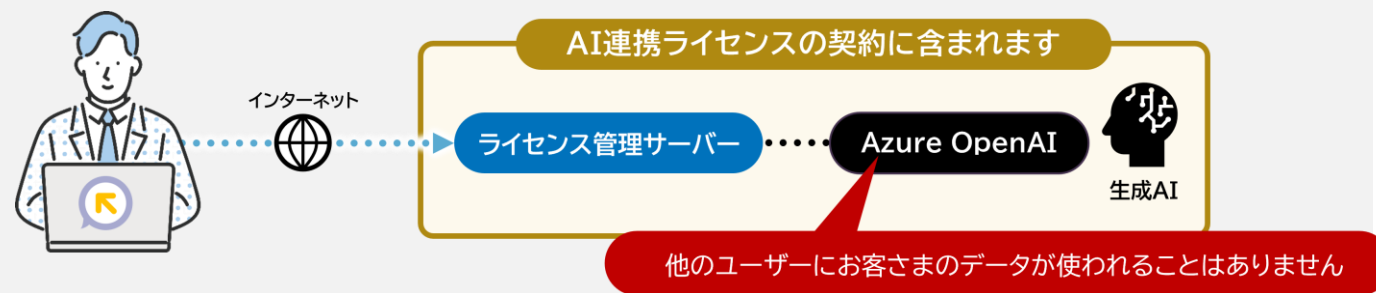
生成AI
ライセンス
付き

AI連携ライセンス(AL)

- ・ 購入したライセンス数の範囲内で、端末を限定せずWinActorが利用可能※1
- ・ 管理製品は不要
- ・ NTT-ATの管理サーバーへのインターネット接続(HTTPS通信)が必要
- ・ 2026年9月末まで、生成AI利用量の上限なし※2
- ・ 同時利用する端末数分のライセンスが必要



※1 利用予定の全ての端末にWinActor(AL)のインストールが必要



生成AIベンダーとの別途契約が不要

※2 2026年10月以降、生成AI利用量の上限が設定あり

ライセンス種別：フル機能版・実行版・管理実行版

フル機能版

- ・シナリオの開発、編集、実行が可能

(例)部署ごとのシナリオ開発・実行

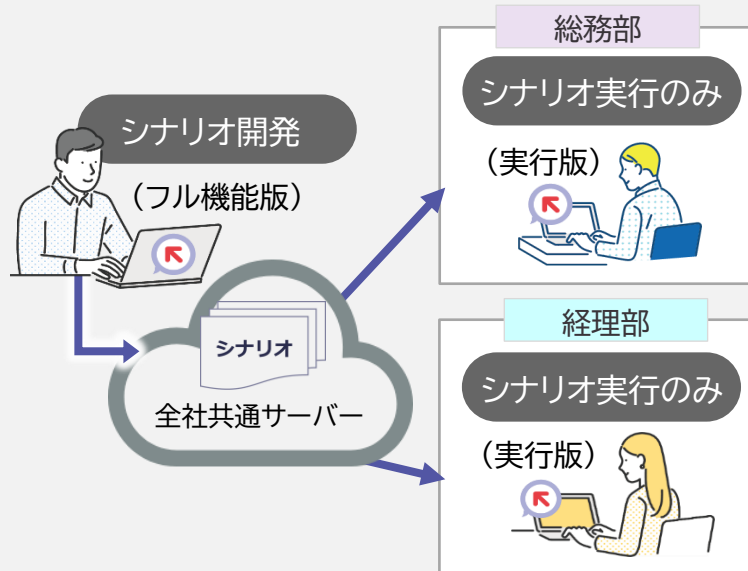


各部署でシナリオ開発・実行

実行版

- ・シナリオ実行のみの安価なライセンス
- ・利用者によるシナリオ作成／編集は不可

(例)実行版を使ったシナリオの社内展開

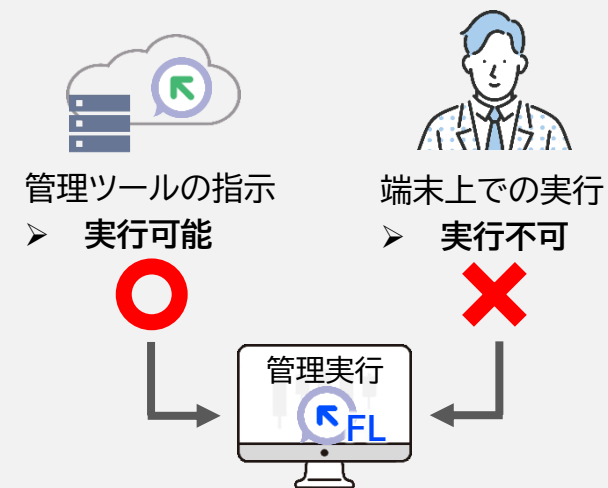


各部署に同じシナリオを配布
安価なライセンスで社内展開が可能

管理実行版

- ・管理ツールの指示のみでシナリオ実行可能
- ・フローティングライセンスのみで提供
- ・シナリオ実行中のみライセンスを消費

(例)管理実行版を使った実行



スケジュール実行で効率的な利用を実現

※FL:フローティングライセンス

※フル機能版／実行版は“管理実行モード”に設定することで管理ツールの指示で実行可能

フル機能版/実行版の「管理実行モード」と「管理実行版」

フル機能版と実行版は、WinActorの設定で「管理実行モード」に切り替えることにより、

管理ツールからの指示のみでシナリオを実行することが可能

ただし、「管理実行モード」に切り替えても**ライセンス消費のタイミングは変わらない**ので注意が必要

ライセンス種別	シナリオ実行のトリガー	ライセンス消費タイミング
フル機能版/実行版 (管理実行モード OFF)	・WinActorをインストールしている端末上の操作 ※管理ツールからの指示はできません。	WinActor起動～WinActor終了の間
フル機能版/実行版 (管理実行モード ON)	・管理ツールからの指示のみ	WinActor起動～WinActor終了の間
管理実行版	・管理ツールからの指示のみ	シナリオを実行している間

■ 管理実行版を選択するメリット

1. ガバナンス強化

シナリオ実行のトリガーを切り替えられないため、シナリオ実行者を明確に制限できる

2. ライセンスの利用効率化

シナリオを実行している間のみライセンスを消費するため**利用効率をあげられる**

WinActorライセンス種類とライセンス種別の組み合わせ

生成AI
ライセンス
付き!

■ ライセンス種類 ■

ノードロックライセンス(NL)

1ライセンス/1端末でご利用可能
(同じ端末を複数人で使用も可能)



フローティングライセンス(FL)

購入したライセンス数の範囲内で
ご利用可能
(端末(場所)を問わずご利用可能)



AI連携ライセンス(AL)

購入したライセンス数の範囲内で
ご利用可能
(端末(場所)を問わずご利用可能)



■ ライセンス種別 ■

フル機能版

シナリオ作成	○
シナリオ編集	○
シナリオ実行	○
ライセンス種類	NL / FL / AL

実行版

シナリオ作成	×
シナリオ編集	×
シナリオ実行	○
ライセンス種類	NL / FL / AL

管理実行版

シナリオ作成	×
シナリオ編集	×
シナリオ実行	○*
ライセンス種類	FL

* 管理ツールの指示によってのみ、シナリオを実行

複数ユーザーアカウントでのノードロックライセンス利用について

【クライアントOS(Windows11等)の場合】

管理者ユーザー用インストーラー: (ファイル名: WinActor_v7XX_i_expire_YYYYMMDD_XXdays.zip)

- Windows上の管理者権限でインストールとライセンス登録
- Windowsの複数ユーザーアカウントで同一のライセンスの利用が可能

標準ユーザー用インストーラー: (ファイル名: WinActor_v7XX_inp_expire_YYYYMMDD_XXdays.zip)

- Windows上管理者権限なしでインストールとライセンス登録
- Windowsの複数ユーザーアカウントそれぞれにライセンスが必要

【サーバーOS(Windows Server 2025等)の場合】

インストーラー(管理者ユーザー用・標準ユーザー用)にかかわらず

- ご利用されるWindowsのユーザーアカウント数分のライセンスが必要
- 各Windowsユーザーアカウント毎にライセンス申請と登録が必要

※原則、管理者ユーザー用をご利用いただき、インストールできない等の場合に標準ユーザー用をご利用ください

【参考】 ブラウザ操作のための事前設定

1. WinActorライセンスインストール手順

- ガイドに従ってインストール

2. ブラウザ拡張機能のインストール

- ChromeまたはEdgeの拡張機能インストールマニュアルを参考に、ブラウザ拡張機能をインストール
- インターネット接続がない場合は、ローカルファイルを利用
- ブラウザ拡張機能は、WinActorのバージョンと連動

3. 必要な場合は、Webドライバーの設定

ブラウザ操作シナリオ作成マニュアルのを参考にWebドライバーのダウンロード

ブラウザのバージョンが変更されるたびに、Webドライバーの更新が必要

→ オプション>更新で「自動更新」に設定することで、都度のアップデート作業は不要

AI連携ライセンスご利用の流れ

ALのインストーラーはFLのインストーラーを利用いただきます。
AL専用のサーバー接続情報を設定いただくだけで、利用開始できます。

① インストール

FLのインストーラーを利用いただきます。

② WinActorを起動し、
[オプション]-[管理サーバ]&[ライセンスサーバ]に
サーバー接続情報(URL、パスワード)を設定

サーバー接続情報は、ALの「ライセンス証書」に記載されます。

③ [ツール]-[外部サービス連携]-[生成AI連携]で
「シナリオの作成にNTT-ATが契約するAzure
OpenAIを利用する」をチェック

④ 契約開始日以降、AL利用スタート

オプション

記録 編集 時刻 ログ スクリーンセーバー 更新 ブラウザ 生成AI その他

管理サーバ ライセンスサーバ プロキシサーバ サーバ接続状況 ログサーバ 実行

☐ 管理サーバからの指示で動作する

管理サーバ1 例: https://192.0.2.0/

URL XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

パスワード ●●●●●●●●●●●●●●●●

接続チェック

生成AI連携

☐ シナリオの作成に生成AIを利用しない

☒ シナリオの作成にNTT-ATが契約するAzure OpenAIを利用する

☐ シナリオの作成にお客様が契約するOpenAIを利用する

APIキー

Organization ID

Model

☐ シナリオの作成にお客様が契約するAzure OpenAIを利用する

AI連携ライセンス利用上の条件・制約事項

WinActorソフトウェア使用許諾書、およびWinActor公式サイトに今後記載されるサービス内容、提供条件等をご確認ください。

1. 利用条件等

- AL利用端末から、NTT-ATの管理サーバーへのインターネット接続(HTTPS通信)が必要です。
- WinActorソフトウェア使用許諾契約書に、NTT-ATがマイクロソフトとの契約に基づき提供する生成AIサービスの利用に関する条項が追加されます。ご利用に際しては、本使用許諾契約書への同意が必要となります。
- WinActor公式サイトに、ALの「サービス提供条件」を掲載いたします。

<https://winactor.biz/rpa/winactor-license.html#al-service-condition>

ご利用にあたって必要なお客様社内での手続きは、ご利用社毎に実施ください。

AI連携ライセンス利用上の条件・制約事項

2. 生成AI利用量について

- ・ 2026年10月以降、生成AI利用量の上限が設定されます。
(上限に達した場合は、追加パックのご購入により利用量を増やすことができます。)
- ・ 2026年9月末まで、生成AI利用量の上限はありませんが、リクエスト過集中により一時的に利用不可になることがあります。(時間を空けてリトライいただけます。)

3. 生成AI利用量のカウント方法

生成AI連携機能の「利用回数」を利用量としてカウントします。

「利用回数」とは、WinActorから生成AIに問い合わせる回数です。トークン数ではありません。

また、利用量のカウントは2026年10月に開始します。したがって2026年9月末までの利用量はゼロと計算されます。

付記: AI連携ライセンス(AL)のよくある質問

ライセンスの運用について	
質問	回答
ALは、ユーザーが契約している管理機能製品でも管理できますか。	いいえ。ALで動作するWinActorは、お客様の管理機能製品ではご利用できません。
サーバーメンテナンス等、ALが利用できないタイミングはありますか。また、そのようなメンテナンス情報はどこで確認すればいいですか。	はい、メンテナンス等により、ALのご利用に影響が生じるケースが発生する場合があります。 そのようなメンテナンスを実施する場合は、日程が決まりましたら事前にWinActor公式サイトでご案内します。
生成AI利用について	
質問	回答
2026年10月以降に設定される生成AI利用量の「上限値」の内容を教えてください。	生成AI利用量の上限値については、準備が整い次第ご案内します。
ALユーザーは、自身の生成AI利用量をどのように確認できますか。	利用量の上限値が設定される2026年10月以降に、確認可能となります。確認方法の詳細は、準備が整い次第ご案内します。

WinActor[®]が、
仕事を変える。
あなたを変える。
組織を変える。